

ボランティア日本語教室ガイド 2014 東京 の冊子が発行されました。



日本語を学びたい人にボランティア日本語教室の情報を紹介します。
楽しく学び、学んだ日本語を、地域社会での生活に早く活かして欲しい!!

る場となっています。まさに国際交流・国際理解が実践される大切な居場所として役割を果たしています。

「ボランティア日本語教室ガイド」は日本語を母語としない人々が日本語を学びたいと希望する時の情報提供として都内で日本語学習支援をしている団体・教室を紹介し、広く活用をされています。

冊子は1994年に初めて発行し、約3年毎に更新、今回で7回目となります。

掲載されているボランティア日本語教室は都内で活動しているボランティア日本語教室の内209団体268教室です。

日本語を学びたい人が情報を得られるように、本冊子はボランティア日本語教室を始め自治体の外国人窓口、国際交流協会、外国大使館、主要な図書館その他の公共機関等に広く配布しています。

本冊子の作成にあたり、都内各地域で活動するボランティア日本語教室に調査票を送り、快く協力頂きました。

合わせて、ボランティア教室関係者と学習者に日本語ボランティア活動に関連するアンケートを行い、結果を報告書「東京都内で活動するボランティア日本語教室の現状調査」にまとめました。

ボランティア日本語教室に来る人々には、初めて日本語を学びたい人から日常会話はもちろん新聞記事が読める人まで、社会人・主婦に留学生・就学生、長期滞在者から短期間の滞在者、国際都市東京に集う近隣のアジアをはじめとして世界各国からの人がいます。

ボランティア日本語教室は日本語学習の場、日本文化を知る場、そしてそこに集う人達の交流の場、お互いを理解す

報告書から学習者の回答

回答された学習者は、アジア圏257人、その他(北米・欧州・中南米・中東・アフリカ)46人 合計303人
以下要約を紹介します

- 1 漢字圏、非漢字圏がほぼ半数づつ
- 2 日本に来てから日本語の勉強をはじめた人は67%
- 3 漢字がどのくらい読めますか
100字ぐらい23%、300字ぐらい 26%
- 4 生活に必要な情報はどこで貰いますか(複数回答)

ボランティア日本語教室(57%)、インターネット(49%)、友人から(47%)の順。役所・出張所(35%)

- 5 役所・学校・町会からの「お知らせ」「生活情報」について
約4割の人が「少しわかる」「わからない」
- 6 役所から出されている多言語情報(英語・中国語・韓国語)について
33%の人が知らない。
- 7 多言語を母語とする学習者は
英語圏(19%)、中国語圏(39%)、韓国語圏(12%)、その他の言語圏(30%)
- 8 多言語で書かれた文の内容について
「少しわかる」「わかりません」が1割でその

約7割がアジア地域。(無回答が1割)

- 9 どんな情報が欲しいですか(複数回答)
暮らしの情報(76%)、事故や火災、地震が起きた時どうするか(58%)
- 10 やさしい日本語について
 - ① 「やさしい日本語」で書かれた「生活情報・お知らせ」を知っていますか(複数回答)
知りません(64%)と最も多く、役所・出張所の冊子・お知らせ(27%)、駅や交通機関のお知らせ(8%)
 - ② 「生活情報・お知らせ」について
「やさしい日本語がいい」44%、多言語がいい33%、その他の言語15%

本冊子は東京ボランティア・市民活動センターの、ボランティア・市民活動支援総合基金「ゆめ応援ファンド」の助成とTNNVN費用(会員の年会費)およびTNNVNスタッフおよび会員団体のメンバーの作業協力を得て出来上がりました。

日本語学習支援ボランティア が目指すもの

——韓国済州島で考えたこと——

寄稿

法政大学キャリアデザイン学部教員 山田 泉

はじめてわたしが日本語学習支援ボランティアをしたのが1979年でした。その後、中国や国内の現場で日本語教員をし、1985年から88年まで文化庁国語課専門職員として、ボランティアによる地域日本語教室を増やしていくために行政ができることは何かなどを考えました。それまでの経験から、外国人移住者等(以降、「移民」)が日本語や日本文化を習得するだけでなく、日本人・日本社会側もこれら移民を受け入れる能力をつけ、ともに変わり、ともに日本社会を「共生」の社会に変えていく主体となる必要があると思ったからです。そのために、双方が出会い、かかわる「場」が不可欠だと考えたのです。

その後、歴代の専門職のお力にもより、地域にボランティア日本語教室が次々とでき、そのネットワークもできていきました。これは所期の目的でありありがたいことですが、ボランティア教室は相互学習の場となり、日本語教育は本来移民受け入れの責任主体である行政による教室に移行するものと考えていました。しかし、それから四半世紀経った現在も、公的保障はほとんど行われず、むしろ後退しているとも考えられます。つまり日本社会はさまざまな移民に頼りながらも、これら「日本人」以外の人々とともにこの社会にとって対等・平等なメンバーと認識していないからではないでしょうか。

わたしは、2009年から3年間、ある研究チームで韓国社会の移民受け入れ施策の調査研究をしました。そして、日本と同じように「単一民族国家」だと言ってきた韓国が、近年移民を受け入

れ、急速に関係法の整備(2005年永住者に地方選挙権付与、2007年在韓外国人処遇基本法、2008年多文化家族支援法等)およびその下で言葉をはじめさまざまな「公的支援」の制度・システムの構築をしてきていることが分かりました。

そして、それがなぜなのかを知りたいと思い、昨(2012)年度、大学の研究休暇制度を利用し、1年間、韓国済州島で「疑似移民」体験をしてきました。それによって分かったことは、韓国人の多くが自らを「主権者」と認識し、国のあり方の責任を負うという自覚があるということです。そして現在「多文化共生」という社会のあり方を選択し、その下での社会創造のために移民への公的支援を支持していることが分かりました。これら、主権者意識は、かつて民主革命によって軍政を倒し民主主義を確立する一方、いまだ「北」とは休戦下で、兵役の義務があることなどと強い関係があることでしょう。

翻って、日本社会が多文化共生に踏み切らない現状は、「日本人」の主権者意識確立が曖昧で、移民に頼りながら、自分たちの都合であえて多文化共生の決断はしないという選択をしているからだと考えます。それは、福島第一原発の事故でも、自らの主権者責任を問う人がほとんどいない現状とも相通じていると思います。わたしは、日本語学習支援ボランティアこそ学習者とともに学び、自らが変わり、ともに社会を変える主体となるべきだと考えます。それが、韓国済州島の「疑似移民」体験から学んだ最も大きなことでした。

NHK「やさしい日本語」の現場取材しました

近年、災害が続くなかで、日本語ボランティアは「やさしい日本語」に興味をもち、普及活動をすすめています。私たち、日本語ボランティアがお手本にし、参考にしているNHKは、「やさしい日本語」をどのように受け止めているのでしょうか。NHKの「やさしい日本語」への取り組みを取材しました。



NHKは、平成24～26年度の経営計画のなかで、「放送と通信の融合時代にふさわしい新たなサービスの充実」を目標に掲げ、ニュース原稿を「やさしい日本語」に書き換え、Webで「NEWS WEB EASY」として公開しています。

当初、世田谷の放送技術研究所と渋谷の放送センターに分かれて作業をしていましたが、平成25年5月から放送センターで一緒に作業をしています。私たちはこの現場に伺いました。エレベーターで地下2階に下り、長い廊下を進むと、ネット報道部があります(写真上)。

机を組んだスペースの奥にデスクが座り、壁にそって並ぶ3台のパソコンの前では、日本語教師二人と記者経験者一人が書き換え作業をしています。

作業は、午前10時に始まります。まず、ネット報道部デスクがすでに出ている記事の中から5本の記事を選びます。生活や日本文化、科学の話題などから、子どもと外国人が興味を持ちそうな記事を探します。一本はテレビでメインに放送されている記事を選びますが、書き換え作業を考えると状況が変化する可能性があるため選ぶのは難しくなります。決まった5本の記事は、昼前と夕方に分けて公開されます。

記事の選定が終わるとやさしい日本語原稿作成が始まります。原稿はネット報道部デスクと書き換え作業、元

なる記事を書いた出稿部デスクと相談しながら、完成度の高い記事になっていきます。書き換え作業による揺れを抑え、かつ効率的に行うために、NHKが開発した「書き換えエディター」と「用例検索システム」を活用します。完成原稿は最後にWEBページ制作担当者によって公開されます。

NHKは、このサービスをスタートさせるにあたり、ニュース原稿を「やさしい日本語」に変換するための支援技術などを開発しました。そして、「ニュース独特の表現をどうするか」という課題に向かい合いながら、「ニュースの正しい理解」を損なわない書き換えを目指しています。さらに、対象としていた外国人、子どもだけでなく、様々な情報弱者の方々からのご意見にも耳を傾けています。

(取材) 大木千冬、岡田美奈子
林川玲子、山本英子

NWES WEB EASY での「やさしい日本語」のページ構成

●基準

旧日本語能力試験の3級と4級

●構成

- すべての漢字にルビをふる
- 旧日本語能力試験の2級以上の難しい単語は、カーソルを当てると意味が出てくる
→ 三省堂の小学生用国語辞書ソフトを使用
- 固有名詞(地名・人の名前・組織の名前)はクリックでことばの色が変わる
- 音声で読み上げる機能 →

市販の音声合成ソフト使用

- 元の記事や動画へのリンク

●書き換えの実例

ニュース独特の言い回し「としていま

す」を3通りに書き換えた例

- ①「警察は～としています」→
「警察は～とっています」
- ②「1万円までとしています」→
「1万円までとする予定です。」
- ③「加速させたいとしています」→
「もっと早く進めることにしています」





片頭痛が教えてくれたこと

日本語教師 金子 広幸

みなさんは「片頭痛」という病気をご存知ですか。原因不明の神経の病気です。実は私も昔から悩まされています。特効薬を携行、「兆候」なるものが出たら、間髪をいれず投薬しないと、あとで大変なことになります。

あの「兆候」の気持ちの悪さ。その日は朝から何となく「来る」予感が…。突然視界の中に現れる閃輝暗点という名の光の点。それがだんだん拡大して、身の毛もよだつ美しさの虹色の光のギザギザになって、ごわごわと動きながら広がります。ピークのときは、視界全体が「放送終了後のテレビの画面」のよう。初めてそうなったとき私は、「極楽からお迎えが来た」のかと思ってしまいました。それが収束すると、激痛という言葉では足りないくらいの痛み、そして激しい胃腸障害が始まります。

トイレとの往復以外は横になっているしかなく、耐えること数時間。痛みのために眠れなかった頭が疲労困憊、ほんの数分ウトウトするとケロツと治り、翌日は気分爽快。これが実に不思議です。

こんな苦しみだから、「兆候」が起こらないように、大好きなチョコレートを控えたり、空腹時に起こりやすいことを予見して、パンやお菓子を少しずつ食べたりします。憎らしいのが起きるタイミングで、大事な会議の途中で突然大騒ぎで薬を飲んだりしますし、ハードなスケ

ジュールを終えた直後になりやすく、せっかくの休日の最初の1日が台無しになったりするので。

ここで、ポイントです。片頭痛の経験がある人は、ここまでを「うんうんっ!」とうなずきながらお読みになったのでは？一方、経験がない人は、「カネコはいったい何を言いたいのか」と首をかしげながらお読みになったのでは？

学生の中にも、片頭痛の発作を持っている人がいて、人種も、民族も、育った環境も違うのに、その苦しみや始まる時のメカニズムを「同じように」承知していて、対策もいろいろ持っています。ある日、初級のクラスで、この件で話合ったことがありました。たまたま学生が全員「片頭痛持ち」だったからです。私の信頼する編集者が言うには、この連中を「ズーツ」というらしいのです(笑)。このズーツは日本語能力はおぼつかないのに、語ること、語ること!やれ「ショウガを食べないほうがいいです」とか、やれ「忙しいときの後になりますから、休みの日の朝に少し運動したほうがいいです」とか、初級教科書もびっくりの例文が続出するのです。私も「ズーツ」のメンバーですから、自分の身に起きたことを、初級用のことばで伝えるのに躍起となりました。

人類は「共通の敵」、「共通のバックグラウンド」があると、お互いの共感度は高くなり、強い絆を結ぶことができるのです。そして、周囲の影響を受けやすいのも人類の特徴なのかもしれません。もう一つ忘れてならないのは、片頭痛の発作がない人にはこれがまったく理解できず、人が共感しあっている様子が奇妙に思え、共感や絆は成り立たないということです。

私も担当するクラスではこのことを意識するようにしています。

この10年千葉県松戸市でボランティア養成講座を担当してきました。このカリキュラムの中に、ちょっと変わった活動があります。「異文化セッションシミュレーション」です。ボランティア養成なので、日本人が多数なのですが、ある程度の日本語能力があって活動の意義が伝われば、外国人市民でも参加できます。

まず、クラスをABに二分します。そして、それぞれに、人工的な「国」のあらましと文化背景をグループごとに文章で読んでもらいます。以下は例です。

グループA用

『3000年にも及ぶ歴史を持つ国。歴朝の高い文明は周囲の国々に大きな影響を与え、現在でも皇族や貴族などの振る舞い、たしなみなどが文化の手本となっており、臣民の多くはそれを尊

び、継承しようとしている。…』

『最大の美德は「沈黙」。できるだけ話さないことが大切。お互いを「～さま」と呼び合う。いつでも必ず「です・ます」を使用、敬語も多用。伝統尊重が義務。話すときは、敬意の表現として、相手から1.5メートル以上離れること。相手の目を見て話すことは大変な非礼。表情はできるだけ隠し、ゆっくり小さい声で話すこと…』筆者要約)

グループB用

『200年前の市民革命によって成立した共和制の国。国の代表は市民の総選挙で選出。革命後、世界中の民族がこの国に集まり市民社会を構成。この国の動向は大きな影響力を持ち、世界経済の主軸としての役割は極めて大きい。この国で制作されるテレビ番組、映画、アニメなどが世界中で見られている…』

『市民が尊重することは「明朗快活」。市民同士のコミュニケーションが大切。いつでも友人のように「普通形」で話し、フレンドリーな社会を作るため敬語は全廃された。話すときは1メートル以内に寄って、相手の目を見てしっかり大きな声でたくさん話す。表情は大きく明るく、ジェスチャーも使用可。』
というようなものです。

AB各グループは、相手の「国」のあらまし、文化背景は知りません。隔離された状態にあるので、自分たちの文化背景をより深く意識するようになります。他と違ってはならないと思う

のか、やがて独自の方法を考え出して、「右傾化」が進行します。

ファシリテーター（促進者）は私になりますが、ふたつの隔離したグループの間を行き来して、「相手のほうが準備が進んでいますよ!」などとせかします。

一定の時間が過ぎたら、偽の「国際親善パーティー」という設定で、セッションを行います。このとき、ほんの数十分前まで、仲良く話していた相手グループの人たちが、奇妙に見えます。

10分後、ふたつのグループに戻り、ファシリテーターは、相手がどのように見えたかを話し合うように促します。すると、まずお互いの中傷から始まります。Aグループは「Bの人たちはなんてずうずうしいのでしょう」と、Bグループからは「Aのやつらは何を考えているのかわからないんだよね」という意見が出ます。ここで、ファシリテーターが、次の「国際親善パーティー」の計画をAB両グループに発表して、さらに計画を練るように促します。すると、中傷だけで終

わっていた発言が、お互いの違いを認めるようになり、どうやったら共通点を見出せるのか模索するようになっていきます。例えば、「私たちには3000年の歴史があるから!」などと極論が出る一方で、「自分たちの方法がある程度は曲げてもいいのではないかと、優しく話してあげたい」とか「私たちのやり方も知ってもらおう」という意見も出始めます。頃合いを見て、お互いのグループのあらましや「文化背景」を読んだりすると、さらに理解・共感が広がります。そしてもう一度「国際親善パーティー」開催と、活動を進めます。

参加者からは、「言葉にはできないことをたくさん感じる事ができた」という反応が出ます。

ある国の軍隊が、他国の治安維持に入った時、地域の人を怖がらせないように、その軍隊のメンバーに「スマイル!」と指示したと言います。「人が共感する瞬間」。深く意識して活動に取り入れたいですね。



■日本語学習の“一歩目”を応援します

CCIEA土曜日日本語教室 (中央区)

教室代表 古屋 亜子

皆様、こんにちは!

中央区の土曜日日本語教室です。

私たちの教室は、中央区新富町にある中央区文化・国際交流振興協会の講習室を活動場所とし、月に3回程土曜日の午前中に集まります。

平日はオフィス街の顔を持つ新富町ですが、私たちが集まる土曜日は静かで、近くの公園では親子連れの姿もあり、落ち着いた環境です。足を伸ばすと日本橋や銀座があり、お散歩や散策にもおすすめの場所です。

学習者は、会社員や主婦、飲食店スタッフ、学生など。ボランティアは、ほぼ毎年新しいメンバーが増えます。

主に初心者向けの教室ですが“初心者”といっても、学習者個々の習得度や学ぶ目的など十人十色。

ほぼ1対1の学習形態で、十人十色の学習者に、十人十色のボランティアが対応します。できるだけ毎回同じペアになるように心掛けていますが、学習者、ボランティアともに都合により、それがかなわないこともあります。学習記録カードを利用したり、ボランティア間で情報共有したりして、学習者にもボランティアにも負担が少ないように努めています。

教室のスケジュールには、通常の教室と数回の懇親会があります。

懇親会の時には、学習者同士、学習者とボランティア、そしてボランティア同士が協力をして企画、進行を行います。学習



者、ボランティア、双方の学習意欲が膨らむような、みんなの印象に残るような、内容を考えています。

グループワークやゲームを行うことが多いのですが、学習者からもボランティアからも意外(?)な一面を垣間見られることもあります。

教室を“学ぶ場”であるとともに“コミュニケーションの場”とも考えております。

大それたことはできませんが、1回1回の“学ぶ場とコミュニケーションの場”を大事に運営していきたいです。

会員団体紹介

Nice to Meet You

東京西部に位置するあきる野市は秋川市と五日市町が合併してできた清流と緑に囲まれた所です。

近くに横田基地があり、企業も進出して、現在は米国、中国、ブラジル、ペルー、インド、タイ、カンボジア等々様々な国の方達と、毎週金曜日19時30分から21時まで授業をしています。

日本語レベルが個々違うので、マンツーマンで行います。希望があれば、家族、子供もすべて受け入れるので、沢山いるわけでないボランティアは、先生、ベビーシッター、生活相談等教室内はてんやわんや…。生徒が多くてボランティアが足りなかったり、反対に生徒がひとりしか来なかったり、去る人、来る人、生徒数にも波があります。それでも活動は16年目に入りました。

■日本で頑張る外国人に寄り添いたい

あきる野市日本語サークル (練馬区)

代表 前田 由美子

現在は外国人が14名、子供3名、ボランティアは12名。絶対的にボランティア不足で毎週ドキドキしながら出席しています。先生側は学生で若い人もいますが、多くが60歳以上で高齢化の縮図で息も絶え絶え…。学生さんは就職すればボランティアに来ることも難しくなり、ボランティアがなかなか育たないのが悩みです。

生徒さんは、日本語検定を受ける人、仕事に就くための人、家族を呼び日本に根付こうとしている人、日本に来たけれど日本人の授業についていけない子供達、日本人と結婚した人等皆さん日本で夢を叶えようと頑張っています。

教室に入る日本人外国人の合言葉「コンバンワ」最初に覚える日本語です。ここから始まり、最後は「ありがとうございました」



「気をつけてね、また来週」と皆にこやかに教室を去っていきます。

一番嬉しい事は、帰国した外国人が手紙、メール等で近況を報告してくる事です。

日本で頑張っている外国人に「負けないで」「やればできる」「そばにいるよ」と心から応援しています。これからも日本語という共通の言葉で、楽しく勉強を続けていこうと思っています。

将来 介護士になります！

林川 玲子 ビバ日本語教室 (港区)

今年1月に新しい学習者が3人入りました。近くの高齢者施設「白金の森」で介護士の研修をするインドネシアから来た若い女性たちです。今日は、その3人にインタビューをしました。三人ともお国で半年、日本で半年ほど日本語の勉強をしているので、日常会話はほぼ困りません。

26歳のティティさんはジャワ島ジョクジャカル出身、23歳のジュイタさんは北スマトラのペマタンシアンター出身、22歳のスティニーさんはジャワ島西にあるインドラマユ出身です。3人ともお国で看護師の資格を取りましたが、看護師の仕事がなかなかない、また、給料が安いなどということもあるし、いろいろな経験も積みたいたい、と介護士研修生に応募し、日本へやってきました。ジュイタさんは小さい頃から、外国、特にアメリカで働きたい、そして両親に外国旅行をさせたいと夢見ていたので、この機会をチャンス!と思ったそうです。

日本で暮らして一番嬉しかったことは、雪が降ったことです。南国から来た三人ですが、寒さにめげず雪だるまを作ったそうです。日本は便

利な国で、人は優しいけど、物価が高いのと、あちこちに漢字が多くてたいへんだと言っていました。

介護士試験にパスしたら日本で働きたいそうです。一番若いスティニーさんは日本で素敵な彼を見つけたい、お国に彼がいるというティティさんとジュイタさんも、素敵な人がいたら日本で結婚してもいいと、若い女性らしく目を輝かせて話してくれました。

介護士見習いの仕事をしながら、日本語教材を自習し、毎月のテストを乗り越えなければなりません、3人は明るく、真面目に取り組んでいます。



左から、ジュイタさん、ティティさん、スティニーさん

ボランティアの声

国府田さよ子 日本語のなかま (北区)

一人でも多くの人に日本を理解してほしい

私が参加している「日本語のなかま」は王子駅に近く、花見で有名な飛鳥山の傍らにあります。

平日の午前中という時間帯もあって、ビジネスマンや仕事で来ている人は比較的少なく、主婦や日本語を勉強に来ている学生などが多い教室です。子供を連れてきてもOKです。10～15人程度のボランティアが原則一対一のマンツーマンで行っております。

日本語を学ぶ外国人というのは、まさに世界の中で日本の状況と連動していて政治、経済、社会情勢を反映して、それによって、日本語を学ぶ人達の国や人数、人々の階層まで変わる様に思えます。バブル期の頃の日本には、大勢の中国人を筆頭に韓国人、その他アジアの留学生や仕事を求める若い人達が勢揃いしてきました。その後日本の景気の後退と共に減ってきて、最近では3・11の震災、福島原発問題で一気に減ってしまい、



一時は本当に少なくなりました。

今も日中、日韓と色々な問題を抱えております。でも私達は何があっても常に受け入れ体勢OKです。難しい時代であればこそ、本当の日本を知ってもらう為に普通の一市民である私達が誠実に向き合って理解してもらうのが、地味ではあるが大切な事だと思うのです。日本に住んで、仕事をし、子育てをしている中国人などは本当に真剣に日本語を学びに来ています。彼らの希望に応える為にも出来るだけの事をして、一人でも多くの方が日本を理解してくれるようにと思う日々です。



◎2013年度のTNVN総会を4月20日(日)に開催します。

TNVN総会を下記の通り開催します。TNVN会員には別途総会案内をお送りします。

◆日時／2014年4月20日(日)
13:00~16:00

◆場所／
東京ボランティア市民活動センター
B会議室

JR総武線、東西線、南北線、有楽町線 飯田橋駅下車
「セントラルプラザ」10階
(JR総武線駅に隣接)

◆内容

①2013年度活動結果報告
②2014年度の役員選出と活動計画

③情報・意見交換会

都内各地域で日本語ボランティア活動をしている方々が多数参加し、お互いに活動の状況や問題・課題について、情報交換・意見交換をして戴きたいと願っています。

◎「ボランティア日本語教室ガイド2014東京」が出来ました。

・都内で活動するボランティア日本語教室の活動内容を一覧にしてあります。

・ガイド作成に当たり調査にご協力を頂きました209団体268教室が掲載されています。

・日本語の学習を望んでいる方々が一人でも多くその機会を得

られるよう活用をお願いします。

・掲載団体を始め、自治体・公的機関で外国人が多く立ち寄る施設・場所に配布します。

・「ガイド」をご希望の方はメール、又は電話でお申し込みの上、頒布代金(1部700円)と送料を郵便局でお払い込み下さい。

・口座番号:00100-1-719259

・加入者名:東京日本語ボランティア・ネットワーク

◆送料／宅配便 1部:80円
2部:160円

なお東京ボランティア市民活動センター(TEL:03-3235-1171)でも購入できます。

◎「わかる日本語」研究会の活動がNHK NEWS WEBで紹介されました。

NHKではすでに2012年からNHK NEWS WEB EASYでニュースを「やさしい日本語」で発信しています。本号P-3 ZOOM INに NHKの取材記事を載せました。

NHK NEWS WEBに2014年1月6日~8日、3回に

渡り「やさしい日本語」についての記事が掲載されました。

1回目に、京都の「やさしい日本語有志の会」。

2回目は、「東京日本語ボランティア・ネットワーク」「わかる日本語」の取り組み。

その中で大田区・micsお

たからTNVN が依頼を受けて行った「わかる日本語」講座(全6回)も紹介されました。

3回目はNHKの記者が伝えるときに気をつける点などをまとめています。

column

ネパールの服喪

中学2年生の日本語学習支援を水曜日の放課後に1年ほど続けています。彼女はネパール出身で、牛肉や豚肉は食べません。

先日、机に座るなり「お腹が空いた」と言うので、給食が食べられないメニューだったのか尋ねると「1週間前にネパールの従兄弟が事故で死んだから」との返事。ネパールでは「近い人が亡くなったら、塩を絶つ。塩を使った料理と同時に調理した物は、野菜や米でも食べてはいけません。」のだそうです。だから給食は、おかずだけでなくパンも白ご飯も食べてはいけず、ゼリーや果物も駄目だとか。塩を絶つ期間は10日間くらいで、お母さんが肉・塩無しの食事を作ってくれるのです

が、その日は寝坊して朝食も食べてないと言うので日本語は早めに切り上げました。

私は昨年、母を亡くしましたが、肉食や旅行を控えることもなく、唯一年賀状を出さなただけで普通に暮らしています。ネパールの習慣には驚くとともに、厳粛な思いがしました。(O.M)



TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVN の会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通して、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVN は会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

◆日時：毎週金曜日

第1、第3 金曜日／午後2時~4時
第2、第4 金曜日／午後2時~6時
第5 金曜日／休み

◆場所

東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線一出口 B2b) 飯田橋駅下車
セントラルプラザビル 10F ロビー

◆日本語ボランティア相談窓口

日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフがお応えしています。メール・電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えしています。ご意見もお待ちしております。

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸 1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス No.4

●TEL：03-3235-1171

(呼出：金曜日活動時間帯のみ)

●FAX：03-3235-0050

●E-mail：webadmin@tnvn.jp

●URL：http://www.tnvn.jp/

●郵便局払込

口座番号：00100-1-719259

加入者名：東京日本語ボランティア・ネットワーク

●新会員紹介

正会員／日本語ボランティア翼の会(羽村市)

●会員数(2014年2月14日現在)

正会員：81団体、団体協力会員：2団体

個人協力会員：15名、賛助会員：4団体

●編集／大木千冬、岡田美奈子、小川伶子、梶村勝利、床呂英一、林川玲子、山本英子

●レイアウト／鶴田 環恵